

生涯教育研修活動報告書

一般検査研究班

- 1 実施日時： 2021 年 8 月 5 日 19 時 00 分 ～ 20 時 00 分
- 2 会場： WEB 開催 点数： 専門 — 20 点
- 3 主題： 腎臓が好きになる④ ～腎疾患～
- 4 講師： 藤村 和夫 (埼玉県済生会川口総合病院)
- 5 協賛： なし
- 6 参加人数： 会員 171 名 賛助会員 0 名 非会員 0 名
- 7 出席した研究班班員：藤村 和夫 室谷 明子 小関 紀之 柿沼 智史 佐々木菜緒
小針奈穂美 中川 禎己 渡邊 裕樹

8 研修内容の概要・感想など

一般研究班主催の研修会として腎臓が好きになる④～腎疾患～が Web 環境で開催された。講師は、藤村氏に腎生検の適応や禁忌、診断の流れについて症例を交えてご講演いただいた。

診断の流れとして、最初に尿定性や尿沈渣などの検査所見や症状、臨床経過から症候診断名を判断する。症候診断名には、急性腎炎症候群や急速進行性腎炎症候群のように急速に経過するものや、慢性腎炎症候群などのように慢性的に経過するものが含まれる。次に症候診断名を決定後、腎生検の可否を判断する。腎生検施行後は病理組織の結果を踏まえて組織診断名を判断するが、腎生検未実施の場合も多種・多様の検査項目で組織診断名の推測に努め、疾患の治療に移る。

腎生検の適応は尿蛋白を伴う顕微鏡的血尿や高度の蛋白尿などの尿所見を認めるもので、腎生検は診断に欠かせないものとなっているが、侵襲性を伴うため、尿路感染などの炎症や片腎、末期腎不全、嚢胞性腎疾患などの病態では禁忌となっている。

症例解説では、症例 1 はネフローゼ症候群により腎生検となり、組織診断名はメサンギウム増殖性糸球体腎炎であった IgA 腎症の症例であった。ネフローゼ症候群は微小変化型、膜性腎症が大半を占めるが、今回の症例のメサンギウム増殖性糸球体腎炎も少ない割合で存在する。症例 2 は、ANCA 関連血管炎による急速進行性腎炎症候群であり、腎障害は高度であったが、腎委縮を伴っていたため、腎生検の適応とはならなかった症例であった。急速進行性腎炎症候群は一次性(原発性)と二次性に分類され ANCA 関連血管炎は二次性に含まれる。

ANCA 関連血管炎は MPO-ANCA, PR3-ANCA のいずれかを陽性とする疾患群であるが、全身性や局所性を示すものなど病態は複雑である。

検査に携わる検査技師にとって、検査から診断までの流れを理解することの重要性について再確認できた。今回の勉強会は、日常に一般検査に携わる方のみならず認定一般検査技師試験を控える方にとっても有意義な研修会であった。

提出日 2021年 8月 18日

文責：渡邊 裕樹